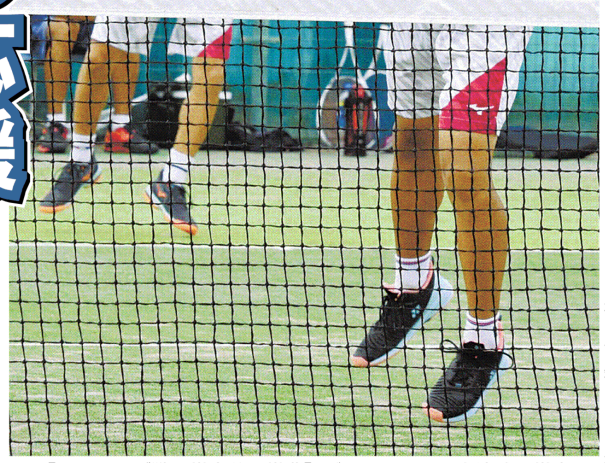
掲載日:2023年10月12日，面名:かちスポ１，記事ID:KIJ20231012_A0013000101601001
(C)十勝毎日新聞社
毎日新聞

帯大谷男子 初V

『十勝一』の応援 プレー後押し



【男子リーグ戦・帯大谷―帯農】ボレーショットを決める帯大谷の秋本章吾（手前）。増岡輝（後方）とのペアでチームの初優勝を決めた

5月の高体連十勝支部大会は予選リーグ2戦全敗で敗退。悔し涙を流して巻き返しを誓った帯大谷男子が固い結束力を示す大きな声援に背中を押され、夏、秋含めて初の団体優勝をつかみ取った。勝利の瞬間、喜びの涙を流した増岡輝主将（2年）は「十勝で一番盛り上がった応援がプレーの力となった」と胸を張った。

全勝同士で迎えた帯農との決戦。第1ダブルス（D）の陸裕翔・小向琉斗組（2年）が4―1で勝利し、チームを勢いづけた。第2Dの藤井大空・今泉颯太組（2年）は2―4で敗れはしたが、0―3から2ゲーム連取と食い下がった。

1―1で迎えた第3D。増岡・秋本章吾（1年）組が部を挙げての声援を一身に浴びてコートに立った。第1ゲーム（G）を先取した後、2G連続で落としたが、第4Gは2度のジュースを経て奪取。第5Gをキープして迎えた第6Gは2―2から秋本の連続ボレーショットで勝利を決めた。

増岡主将は「苦しくて、手も震えた。でもペアで話し合い、みんなの『頑張れ』の声に支えられた」と感無量の表情。「自分たちは中学生のときからコロナで声出しができない中でプレーしてきた。コロナ明けで声出しも解禁されたことで十勝で一番の応援を目指してきた」とチームの一体感を強調した。

同時に、外部コーチにも感謝。「熱心に指導してくれ、コーチの知り合いも来てくれた」と技術力も高まった。

今大会、女子は代表決定戦で敗れ、全道大会を逃したが、目標は男女そろっての全道高体連出場。増岡主将は「練習も男女一緒。一丸となって十勝を制し、全道に行きます」と決意を込めた。

男子初優勝の帯大谷

電子版に複数写真

全十勝高体連 ■新人大会 ソフトテニス

（9月30日・帯広の森テニスコート）

4校によるリーグ戦が行われた男子は、全勝対決となった最終戦で帯大谷が帯農に2―1で競り勝ち、3戦全勝で初優勝を飾った。2位は帯農で、帯工が全道大会への代表権を獲得した。

7校出場の女子は、予選リーグと決勝トーナメントを実施。決勝は帯三条が帯緑陽を2―0のストレートで下し、2006年以来17年ぶりの優勝を果たした。第3代表決定戦は帯南商が帯大谷に2―0で勝利した。道大会は来年1月23～26日に札幌市内で行われる。（大野篤志）

団体戦

【男子】◇リーグ戦▼順位＝①帯大谷3勝②帯農2勝1敗③帯工1勝2敗③帯緑陽3敗

帯大谷 2―1 帯農
帯大谷 3―0 帯工
帯農 2―1 帯緑陽
帯工 2―1 帯緑陽
帯工 3―0 帯緑陽

【女子】◇予選リーグ▽Aブロック▼順位＝①帯三条2勝②帯南商1勝1敗③帯柏葉2敗

帯三条 3―0 帯南商
帯南商 2―1 帯柏葉
帯三条 3―0 帯柏葉

▽Bブロック▼順位＝①帯緑陽3勝②帯大谷2勝1敗③芽室1勝2敗④帯農3敗

帯緑陽 3―0 帯芽室
帯大谷 3―0 帯芽室
帯緑陽 2―1 帯大谷
帯芽室 2―1 帯農
帯緑陽 2―1 帯農

◇決勝トーナメント▽準決勝

帯三条 2―0 帯緑陽
帯南商 2―0 帯大谷

▽第3代表決定戦

帯緑陽 2―1 帯南商

男子準優勝の帯農

女子準優勝の帯緑陽

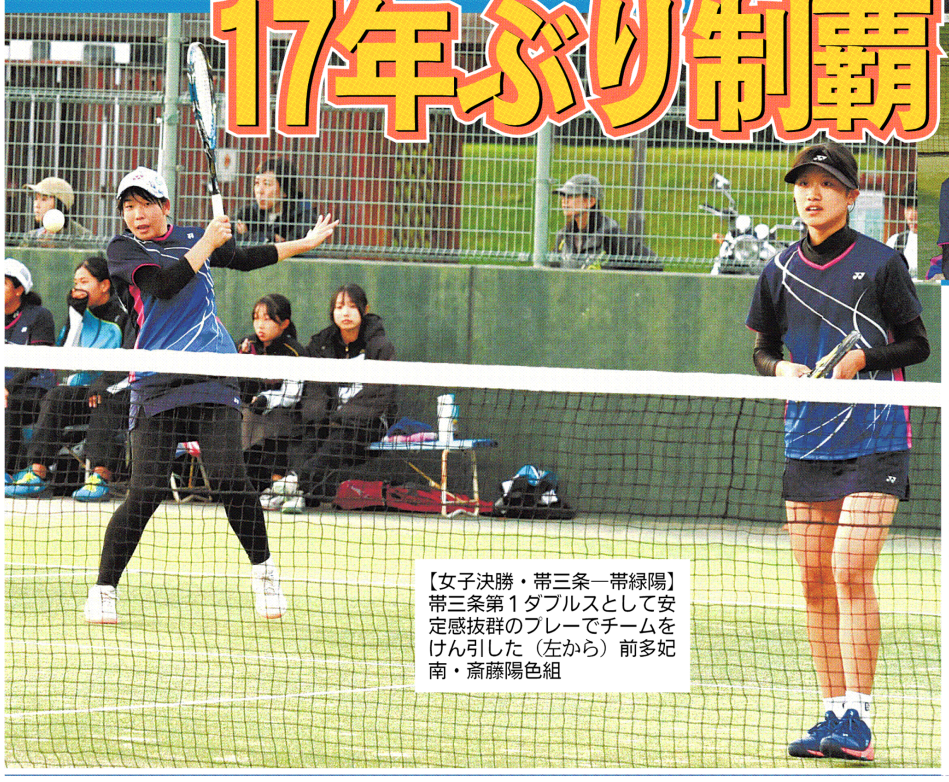
男子第３代表権を獲得した帯工

女子第３代表の権利を獲得した帯南商

帯三条女子 17年ぶり制覇

『戦う気持ち』成長

女子17年ぶり優勝の帯三条



【女子決勝・帯三条―帯緑陽】帯三条第１ダブルスとして安定感抜群のプレーでチームをけん引した（左から）前多妃南・斎藤陽色組

女子は帯三条が予選から決勝までの4試合すべてストレート勝ち。古賀麻寛主将（2年）は「三条の強みであるチームワークの勝利です」とうなずいた。

予選ブロック1位同士の対戦となった決勝は、第1ダブルス（D）の前多妃南・斎藤陽色組（1年・2年）が戦っている間に、第2Dの1年生ペア、中野未緒・横地花音組が先勝。第3Dの古賀・平崎結菜（1年）組もゲームが始まったが、前多・斎藤組が勝利し、優勝が決まった。

5月の高体連十勝支部大会は予選リーグで敗退した。「メンタル面が弱かった」と古賀主将は当時を振り返り、以降、「戦う気持ち」を重視して練習を重ねてきた。そこから8月の新人戦では前多・斎藤組が優勝し、中野・横地組は3位。古賀・平崎組も代表戦を勝ち抜いて全道大会を経験するまでに力を伸ばした。

「まだ、個人のメンタルや細かなミス、雑なプレーなど課題はあるが、これから一球一球集中するように し、競争力も高めていきたい」と来夏に向けて意欲を新たにしていた。